

都会ほど児童虐待通告が多いのはなぜか？

どんな研究

政府の統計資料によれば、**児童相談所に通告される児童虐待は都市部ほど多く、人口密度と正の相関**のあることが知られていますが、その原因はまだはっきりとわかっていません。本研究では、人口密度の高い地域では近隣住民が虐待の兆候に気づきやすいという仮説を立て検討しました。

どこが凄い

全国5500人を対象にWEB調査を行い、人口密度の高い地域の居住者ほど児童虐待の兆候を見聞きした経験があるという結果が得られました。本研究によって、**住環境が虐待発見に寄与する可能性**が初めて指摘されました。

めざす未来

児童虐待は今日の深刻な社会問題の一つです。児童相談所などが手厚い対応を行うには情報を素早く得ることが求められます。市民の**情報提供の特徴を調べ、通報が促進される環境を整備**することで、子どもたちが幸福に暮らせる社会の実現をめざします。

本研究の目的

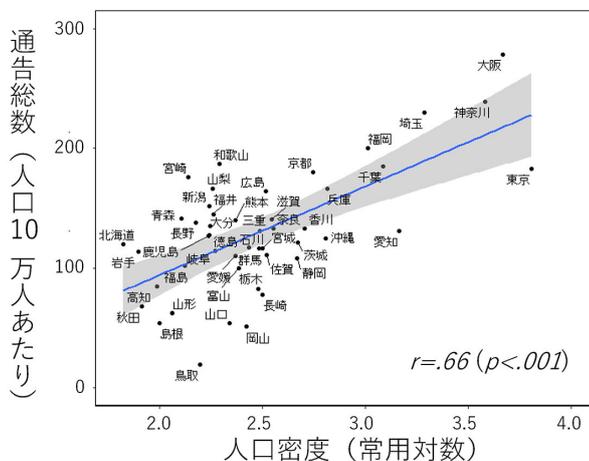
児童虐待の被害を最小限にするには、児童相談所が児童虐待の情報を素早く得ることが重要です。本研究では、児童相談所が虐待を認知する上で重要な**虐待通告に影響する要因**について考えます。

研究1: 人口密度と児童虐待通告件数の関連

目的 都市化の度合いと児童虐待通告との関連を定量的に把握するため、**人口密度**に着目しこれらの関係性を検討します。

方法 政府の公開統計資料を用い、都道府県の**人口密度と虐待通告数の相関**を調べます。
・『福祉行政報告例』と『国勢調査』を使用。

結果 **人口密度の高い都道府県ほど**、児童虐待**通告が多い**ことがわかりました。



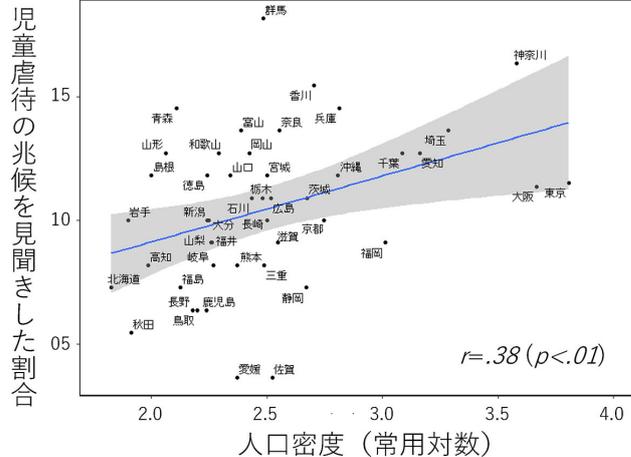
この現象が生じる理由を研究2で検討します。

研究2: 児童虐待の気づきやすさが違う

目的 人口密度の高い地域ほど通告件数が多い理由のひとつとして、虐待の**兆候への気づきやすさ**が影響しているのか検証します。

方法 全国5500人の成人を対象としたWEB調査で**過去3年間に児童虐待の疑われる兆候を見聞きしたことがあるか**尋ねました。

結果 人口密度の高い地域の人ほど、虐待の兆候を見聞きした経験があると回答しました。



不審な物音など、虐待兆候への気づきやすさが通告件数に影響することがわかりました。

本研究の結論

児童虐待の通告件数には、気づきやすさが影響を与える可能性が示唆されました。児童虐待の情報収集には、地域特性に合わせた制度設計が必要だと考えられます。

関連文献

[1] 松田昌史, 奥村優子, 小林哲生, 樋口大樹, “児童相談所への虐待通告の地域差 -都道府県単位の人口密度を用いた分析-,” 厚生学の指標, Vol. 70, No. 13, pp. 2-6, 2023.

連絡先

松田 昌史 (Masafumi Matsuda) 共創情報研究部 コミュニケーション発達グループ